

\*\*\*\*\*

NPO法日本海洋深層水協会メールマガジン 第73号 (2014年8月31日)

\*\*\*\*\*

NPO法人日本海洋深層水協会 メルマガ編集チーム 当協会では、海洋深層水利用の最新動向や、各地のイベント、製品開発などの話題を、会員および一般の皆様にも、より積極的にお知らせするために、メールマガジンを発行しています。どなたでもご利用いただけますので、配信をご希望の方は、当協会HPの“メールマガジンの申込み”

[http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo\\_MailMgzn.htm](http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm) からお申し込みください。

なお、昨年10月から非会員の方には3か月に1回の配信となっています。

会員向けには、同時に海洋深層水関連ニュースも配信しています。

読者の皆様で、メルマガやHPを通じて情報や話題を提供したいと思われる方は、メールで [npojadowa@npojadowa.net](mailto:npojadowa@npojadowa.net) まで、ご連絡ください。

\*\*\*\*\*

目次 <協会制作記事> ペットボトル飲料に思った様々なこと

\*\*\*\*\*

### ペットボトル飲料に思った様々なこと

もうかなり前から街中を歩いている人々のうち、かなりの割合の人々はペットボトル入りの飲料水をカバンや手提げ袋、リュックサックなどで持ち歩いております。またこれを飲んでいる光景も普通のこととなっています。健康志向が高まり良質の飲料水としてボトルドウォーターを持ち歩き、飲む風景はごく普通のこととなっています。今年の夏も最高気温が35℃を超えるような日が多く、熱中症を防ぐため、また乾いた喉を潤すために、街中で飲料をのむ風景は今や普通のこととなりました。

ところで私は、普通、街中の自動販売機で飲料を購入して飲むことはほとんどありません。例外は海洋深層水協会に行く土曜日は、昼食用のパンと共に事務所に行く途中の自動販売機でペットボトル飲料を購入して持って行きます。これが私のペットボトルとの付き合いで、家庭内においてもペットボトル飲料を飲むことはほとんどありません。

しかし、先日横浜市内のスポーツセンターに行った時、自動販売機でたまたま海洋深層水のスポーツドリンクを見かけたので、購入して飲んでみました。甘味があり、味について特に良い悪いは考えませんでした。ボトルのラベル表記にもう一工夫あっても良いのではとの思いを持ちました。このことは最後の部分で述べたいと思います。

普段ほとんど付き合いのない自動販売機のペットボトル飲料ですが、こんなことがきっかけで飲料にはどんな種類があるのか興味を持ち、日本ミネラルウォーター協会のホームページなどで調べてみました。

まず、ペットボトルを初めとして様々な容器に入れて販売されているミネラルウォーターはどの様に分類されているのかですが、農林水産省は下表のような「ミネラルウォーター類の品質表示ガイドライン（1990年3月30日）」を策定しています。

## ミネラルウォーター類(容器入り飲用水)の品質表示ガイドライン

平成2年3月30日 2食流第1071号 食品流通局長通達  
改正 平成7年2月17日 7食流第398号

品名	原水	処理法
ナチュラルウォーター	特定の水源地から採水された地下水(注1)	沈殿、ろ過、加熱殺菌以外の物理的・化学的処理を行わないもの
ナチュラルミネラルウォーター	ナチュラルウォーターのうち鉱化された地下水(注2)	
ミネラルウォーター	ナチュラルミネラルウォーターと同じ	品質を安定させる目的等のため、ミネラルの調整、ばっ気、複数の水源地から採水したナチュラルミネラルウォーターの混合等が行われているもの
飲用水又はボトルドウォーター	(飲用適の水(硬度、pHを除く))	(処理法の限定はない)

(注1) 特定の水源地とは、水質、水量において安定した地下水の供給が可能な単独水源地をいう。

(注2) 鉱化された地下水とは、地表から浸透し、地下を移動中又は地下に滞留中に地層中の無機塩類が溶解した地下水(天然の二酸化炭素が溶解し、発泡性を有する地下水を含む。)をいう。

○ナチュラルウォーター、ナチュラルミネラルウォーター以外のものに対する「自然」、「天然」の用語及びこれに類似する用語は表示禁止。

○ボトルドウォーターは(一括表示の中に)採水地を記載することができない。

このガイドラインの分類によりますと、海洋深層水飲料は原水が地下水などではなく、海水なので4番目のボトルドウォーターに分類されることとなります。日本ミネラルウォーター協会では、海洋深層水関係の飲料水は、シーウォーターと言う名称を用いているようです。

このような飲料水の国内生産量は毎年伸びており、2000年の国内生産量は894,300キロリットル(KL)であったものが、13年後の2013年では2,865,305KLと3.2倍、輸入量は195,334KLが389,950KLと2倍となっています。消費量は順調に伸びていることが分かります。一方海洋深層水関係の飲料は2007年から生産量が落ち込み、以後の生産量が回復していない状況のようです。

最後に私の買った海洋深層水のスポーツドリンクの売り方について感想を述べます。瓶のラベルには海洋・ミネラル・深層水という言葉とこれより少し小さめの文字で「海洋深層水」由来のミネラルという表現があり、原材料名としては始めに果糖、次に海洋深層水、以下その他の原材料名が書かれています。ラベル全体は青色を基調に深い海を思わせるようなデザインです。ところが瓶のラベルには何故海洋深層水を原材料として使用するのか、その意義は記載されておりません。

井戸水や湧水、地下水、水道水など普段私たちが普通に接している飲用水と違い、海水は飲用水として用いられていないのに、わざわざ塩辛くて飲めないような海水を飲料水の原材料として採用するのか、説明する文言が欲しいと思いました。

海は地球における命の誕生の場となったところであり、また海洋深層水は表層の海水と比較して、不純物の少ないきれいな海水であり、更に海水の水分と海水に含まれている各種のミネラルを利用した製品であることを、もっとスマートにアピールする書き込みをしたらと思いました。

いかにも情に訴えるやり方かもしれませんが、海洋深層水を飲料水の原料とした理由も、このこと事が出発点となっているのでしょうから。一般的にイメージ売りが先行していると言われる海洋深層水関連製品ですが、私の飲んだスポーツドリンクにはこのような表現はありませんでした。海洋深層水飲料のイメージをもっと広げるような、控えめな表現であっても何か有ったら良いのでは、と思った次第です。

もう一つ気になることが有りました。それは瓶のラベルに書いてあることを細かいところまで見て気づいたことですが、「栄養成分表示に記載のナトリウムとカリウムには、海洋深層水由来成分以外の成分も含まれています」と書かれていたことです。

このボトル飲料の栄養成分 100 ミリリットル (ml) 当たりの栄養成分のうち、ナトリウムは 49 ミリグラム (mg)、カリウムは 1.5mg と記載されています。同じ量の海水 100ml 中のナトリウムは約 1,070mg、カリウムは同様に 40mg 位溶け込んでいますから、他から別の由来のこれら 2 つの成分をわざわざ添加する意味が分かりません。

この飲料の製造過程において、何らかの必要性が生ずるために、このような手段をあえて取っているのでしょうか。ちょっとした謎です。どなたか、この辺の事情を知っておられる方がいらっしゃれば、是非とも、教えてください。

(Okumura)